

令和7年4月

秩父市教育委員会 定例会 議事録

開 会 : 令和7年4月24日(木) 午後2時00分
閉 会 : 令和7年4月24日(木) 午後3時25分
会 議 場 : 歴史文化伝承館2階会議室

出席委員 : 1番委員 大島 隆芳
2番委員 浅海 純一
3番委員 萩原 重範
4番委員 土橋 慶子

出席者 :	教育長	前野 浩二
	事務局長	山越 達也
	事務局次長兼学校指導監	飯野 芳伸
	事務局次長兼教育総務課長	杉田 泰三
	学校教育課長	峯岸 克典
	保健給食課長	内海 典子
	文化財保護課長	伊藤 暁
	教育研究所長	佐々島忠重
	総務課長	溝口 佳臣
	市民スポーツ課長	木村 泰寛
	生涯学習課長	内田 祥史
	秩父図書館長	石間戸美佐

書 記 : 教育総務課主幹 中里 芳隆

1 開会宣言

教 育 長 : 令和7年4月教育委員会定例会の開会を宣言する。

2 署名委員の指名

教 育 長 : 本会議の議事録署名委員として、2番委員及び3番委員を指名する。

3 会議の公開

教 育 長 : 本会議は、公開とすることでよいか。
(「異議なし」の声あり)
異議なしと認め、公開とする。

4 前回会議の議事録の承認

令和7年3月25日に開会された3月秩父市教育委員会定例会議事録の朗読を事務局が行い、出席者の異議なく承認された。

5 報告事項

(1)教育長及び各委員からの報告事項

教 育 長 : 令和7年度がスタートし、間もなく1か月を迎える。各学校は転入の教職員を迎え、新入生が加わり、新しい組織でスタートした。委員の皆様には、大変ご多用の中、年度末には退職教職員辞令交付式、4月1日には教職員就任式へのご出席、また、各小・中学校の入学式では、教育委員会を代表して祝辞を述べていただき、御礼申し上げます。今年は、桜の花がほぼ満開となり、素晴らしい入学式となった。令和7年度小学校の入学児童数は13校で354名、全児童数は2,428名、中学校の入学生徒数は8校で456名、全生徒数は1,331名である。児童・生徒の合計は、3,759名である。

小学校の入学準備品補助のランドセル購入補助について、申請者は、対象者360人に対して、315人の保護者から申請があり、総額15,720,060円、上限5万円の補助になるので、平均49,904円、交付率は87.5%であった。大事に使っていただきたいと思う。また第1回校長会議を4月11日、教頭会議は4月15日、人事評価制度管理職研修会を4月22日に開催した。令和7年度秩父市学校教育推進プランの推進を図ること、そして、これまでの課題である①学力向上、②不登校・登校渋りへの適切な対応、③教職員事故の根絶の3点について指導の徹底を図るとともに、人事評価シートの方策に位置づけるよ

うお願いした。

次に3月29日から31日まで千葉県白子町で行われたソフトテニスの第24回全国小学生大会で、原谷小学校4年生の高林さつきさんは、杉戸町の児童とペアを組み、5ペアの予選リーグを1位で通過し、決勝トーナメントで1回戦シードで、2回戦から決勝戦まで5回勝利し、見事「優勝」したという報告を受けた。

最後に、5月25日開催の第75回全国植樹祭において、天皇・皇后両陛下は、当日の式典前に秩父神社を訪問され、境内に展示する6台の「秩父祭笠鉾・屋台」と「小鹿野子ども歌舞伎」を視察されるという発表が、昨日宮内庁からあった。秩父神社を訪れていただき深く感謝を申し上げるとともに、「全国植樹祭秩父市記念事業秩父祭・川瀬祭の笠鉾・屋台の特別公開」に向けて、引き続き準備を進めていく。

1 番 委 員 : 3点報告する。

1点目、小中学校の入学式に参列した。4月8日影森中学校、4月9日西小学校であった。影森中は新入生82名の1年生を迎えて、晴れやかに行われた。中学校生活は思春期を迎える一番成長の変化のある3年間であるので、学校と家庭が連携を図り、充実の3年間を送って欲しい。また、西小の入学式は52名の新入生が門をくぐった。来賓で地域の方と参加したが、小学1年生が私の周りにいないので、小さくて、かわいい新入生であったが、皆先生の話とか、上級生のお話を落ち着いて、聞いていた。また、式では、私は来賓で行ったが、各町会長の紹介は書面で行い、式を短くする取り組みが見てとれて、非常に好印象に映った。どの小・中学校も「君が代」を歌うが、今回、教育長から話のあった植樹祭が控えている。学校では国歌の歌の意味とか、これがどのように国歌として制定されたのかを改めて子どもたちに教えていただく良い機会だと思う。

2点目、4月17日、秩父地区教育委員会連合会第1回役員会が開催された。5月8日に行われる定期総会の議案について協議をし、併せて令和7年度秩父地区教育委員会連合会研究委嘱校についての協議がなされた。教育委員会連合会で、前回の10月に、皆野町教育委員会が主管となって、金子兜太先生の壺春堂見学があった。非常に面白かったが、その研修会が非常に低予算であったので、次回、秩父が担当で、予算があるので、十分使ってくださいという話があった。

3点目、4月23日、令和7年度埼玉縣市町村教育委員会連合会第1回理事会が羽生市で開催され参加した。これも、5月20日の同連合会総会の議案についての協議であるが、令和7年度は狭山市の古谷会長に引き継がれ、北ブロック、秩父から、私の名前で副会長を輩出となり、5月20日の総会で承認となる。秩父だけの活動ではなく、秩父地区、埼玉県それから、広く全国へ出る機会もあるので、いろいろなところの

取り組み、教育委員会の方と話をした経緯もあるので、非常に大切な時間を過ごせる機会である。教育委員会の皆様も機会あれば、ぜひ参加していただきたい。

2 番 委 員 : 1点、入学式について報告する。

4月8日吉田中学校の入学式に参列した。入学生は27人で、どの生徒も、少し大きめの制服に身を包み、ぎこちなく入学、入場している姿が初々しかった。吉田地域は龍勢で代表される伝統行事によって、学校と地域の結びつきが強い印象があるが、来賓がしっかり挨拶をする形の来賓紹介であった。その顔ぶれは総合的な学習の時間で指導されている龍勢と神楽の指導者も招かれて、吉田中は地域との結びつきが強いという印象を受けた。厳粛な雰囲気を保つために、司会者が礼という号令をかけず、壇上の動きに合わせて、会場が皆礼をする形をとって、厳粛なムードを保っている気がした。特徴的だったのが、閉会の宣言の後、学校職員の紹介があった。これを聞いていた来賓から、これは良いなという声が、聞こえてきて、地域の方も学校と連絡を取るのに、これからどの先生と結びつきがあるのかということが、紹介によって、親密感が出てきてるのではないかと、このような入学式の形もあるのだと思った。式自体は1時間であった。生徒のことを考えて、長くしないところを気かけながらも、学校の特徴をいかした入学式になったと思う。

翌日9日は、私の母校である荒川東小学校に行かせていただいた。新入生は12名で、少ないながらもアットホームな入学式であった。こちらも、子どもたちの健康面を考えて、時間的な長さも気にしているので、閉式まで40分弱という、初めてこの短さを感じたが、内容は手を抜いてるのではなくて、しっかりその辺は粛々に行っていたと思った。最後に校歌斉唱があったが、荒川東小学校には校歌が長く存在せず、私が在籍した当時に校歌が作られた。来賓たちも、自分たちの頃、校歌はなかったという会話が聞こえてきた。当時、私が小学校5年生だったと思うが、その作詞した女性が私達、児童の代表者を屋上に呼び、屋上から見えるこの景色を見ながら、荒川東小学校の良いところを言ってくださいと児童に聞いた。私が提案した言葉が一節に入ってるか、楽しみだったが、結局、そうならなかったのは子どもながらに残念で、いまだに覚えている。荒川東小学校の入学式に参加して、そのようなことを思い出した。両校とも厳粛かつ時間的配慮を第一に考えていると思った。良い入学式に参加させていただいた。

3 番 委 員 : 何点か申し上げる。

初めに、令和7年度当初にあたり教育委員会の指示連絡が各学校に徹底してか、全小・中学校のホームページもリニューアルされて、4月当初の行事をはじめ、年間行事計画の作成をされていた。私も21校を全部見たが、新年度バージョンに切り替わっていた。各学校のホームペ

ージが教育委員会作成のフォーマットか、同一のフォーマットで作成してあるので、とても見やすかった。4月当初、早い時期に、令和7年度にしっかりとリニューアルできていて、滑り出し、今年も上々だなということで大変嬉しく感じた。感謝申し上げる。

入学式に出席しての感想であるが、高篠中学校と尾田蒔小学校に出席をした。新入生保護者を迎える校長先生はじめ教職員、在校生の温かい歓迎ぶりに感心した。それぞれ工夫を凝らして、従前のものとは違い、先生方主導というよりも、その中に生徒たちもできるだけ参加させたいという思いは随所に伺えて、とても暖かい、在校生の歓迎ぶりに感心をした。式場には国旗また式次第が掲げられて、特に今年は両校とも教員の指揮、生徒のピアノ伴奏が大変しっかりして、国歌斉唱が行われたが、在校生がしっかりと声を出して歌い、大変爽やかな感じを受けた。

前回の定例会議で私が申し上げた教育委員会の祝辞、お祝いの言葉では、その内容に注文をつけたことで、入学式直前の忙しいところで担当の方には大変ご苦勞をかけたと思う。本当にお詫びしたいと思う。小学校のお祝いの言葉で、令和7年度教育委員会で進めている「早寝早起き朝ごはん」リーフレットが紹介されていて、保護者にも伝えることができ大変よかったと思う。今後は教育委員会から出されている令和7年度学校教育推進プラン、家庭教育の啓発リーフレットの一部を祝辞の中に盛り込んでも良いのではないかな。祝辞、お祝いの言葉であるから、生徒保護者に祝意を述べることは、もちろんそれが優先であり、当然のことであるが、秩父市教育委員会が管轄する市内小学校13校、中学校8校の入学者数等も紹介することで、市内全体を鳥瞰した教育委員会らしい祝辞になるのではないかな。学校現場は、教育委員会と連動して教育活動を進めていることを保護者に理解してもらうことも、大切なのではないかなと思った。

2点目、特に新任教職員への対応である。入学当初の児童生徒については、まず学校生活環境に慣れることを優先して指導されていると思う。いわゆる適応指導である。これがしっかりとなされることで、子どもの不安を解消して、不登校の未然防止、防止対策として大変有効であると思っている。同様な配慮、気遣いが新任教員にも必要な時代になってきている。昨今の新聞やニュース等見ると、そのようなことが散見される。年々新人の早期退職者数が増えてきている。民間企業での入社当初の新入社員には、会社の職場環境に適応順応できるための様々な工夫を考えているようである。かつて、3年以内の離職者のこと七五三と言ったことがある。つまり中卒で就職をする方は大体3年以内に7割、高卒が5割、大卒が3割は離職していくことを七五三とよく言っていた。今は大卒でも3年以内で45%離職している。ちょっと古い資料であるが厚労省の資料を見ると一番離職率が高いのは、3年以内では、サー

ビス業であるが、3番目あたりに教育関係、或いは学習支援の仕事に従事している人たちの離職率もかなり高いので、この辺については少し考えていかないとだと思ふ。

私も高校で初任者研修を担当したことがあったが、初年度の初任者の研修負担は大変なもので、官製研修があつて、また職場での校内研修もあるので、5年目の学生生活を送っているような、ハードな研修が行われているが、この辺も少し考えていかななくてはならない。1年間で多くのものを一気にこなすのは、実際に生徒も指導し、授業を持ち、部活をやつてということも、配慮して、現行の研修を見直し検討をする時期に来ていると思ふ。辞めていく、離職していく理由は、民間企業であるとかリアリティショック、理想と現実、実際に入ったら、或いは会社の説明会等で受けた内容と実際に就職したら違うことで辞めていく例が多い。学校の教職員に関しては、実際に本人たちが長い学校生活を経験している。義務教育から始まって大学を卒業するまで、そして教育実習等もあつて、現場を十分承知している。ただ実際に、学校現場に立つと、違うと思ふのは、生徒、保護者の対応が以前とは違って厳しくなっている。特に離職率が高いのは、小規模な事業所だという。秩父地域は小規模校が多いので、人間関係作りが、家庭的な雰囲気の良い一面もあるかもしれないが見方を変えれば、数が少ないほどかえって人間関係作りが難しい場合もあるのではないかと思ふ。だから校内の支援体制作りや複数の学校での交流行事等を進めるなど、できるだけ若い教員たちがこの学校、この地域で頑張ってみようという気持ちにさせるような環境作りを考えていくことがあつても良いのではないかと思ふ。教員希望者数も減ってきているので、この世界に飛び込んで来てくれるのはありがたいことである。実際、尊い仕事であるし、やりがいも感じられると思ふが、それを体感する前に、リタイヤするのは実にもったいない話だと思ふ。知恵を出し合つて、特に教育委員会としては、秩父地域は新任者に対する教員の離職率が低く、豊かな経験の積める地域だと評価されるような取り組みを考えていただきたい。

- 4 番 委 員 : 4月になって新年度が始まり、小中学校の入学式に参列した。4月8日が尾田蒔中学校で、新しい少し大きめの制服で緊張気味の姿で新入生は入学、入場してきたが、名前を呼ばれると元気に返事をしていった。3年間で心身ともに成長して、自分の考えを持ち、制服も小さく見えるように成長していったらと思う。尾田蒔中学校は私も卒業生で、久しぶりの校長室でちょっと緊張もしたが、幼稚園のときの教え子が教員でいて、挨拶に来てくれて嬉しかった。4月9日は大田小学校で、パイプ椅子に1人で座り、足もつかず心配気味に周りを見たりする子も見られたが、最後まで静かに参加できていて、すごかったと思ふ。やっぱり大田は小中学校の校歌も一緒なので、町会長とか

も皆歌えるという話で、来賓も盛り上がっていた。中学校の方は校長先生がいらして、中学校の大規模改修の日程が少し早まり、暑さもある、冷房のない教室で授業を生徒たちが受けるのはということで、小学校の教室を借りて過ごすという話をされていて、皆、不便がなければいいねという話でちょっと中学校の校長先生は心配をされていたが、慣れた後の引越しで大変だとは思いますが、学業に影響の出ないように元気に過ごしていただけたらと思う。在校生も、新年度は担任がどうなるのか、どの友達と一緒にのクラスになれるかという楽しみをもちながら始まったようなので、令和7年度が最後まで元気に過ごしていただけたらと思う。

(2)事務局からの報告事項

事務局 長：本年度教育委員会事務局における主要事業について報告する。

まず、教育総務課からは学校施設大規模改造工事である。令和7年度は大田中学校校舎、尾田蒔中学校体育館を実施する。いずれの工事についても、学校と施工業者・教育委員会が十分に協議しながら生徒への安全対策第一で進めていく。

次に、学校教育課からは修学旅行補助金である。物価高騰などの影響で高額化している小中学校の修学旅行に小学生1万円、中学生2万円を補助する事業を行う。詳細について現在調整中である。

次に、保健給食課からは給食費無償化である。昨年まで食材費の55%を補助していたが、本年度より児童生徒については、完全無償化となる。なお、教職員については、実費を徴収する形で進めている。

次に、文化財保護課からは第75回全国植樹祭記念事業笠鉾・屋台特別公開である。既にご承知のことと思うが、5月25日植樹祭の開催に合わせて街中にもにぎわいを創出するため秩父祭り、川瀬祭りの笠鉾・屋台の飾置きを行う。これに伴い24日(土)、25日(日)には、笠鉾・屋台が街中を曳行する。なお、当日は数多くの市の職員が係員として動員される。事故の無いよう十分に準備を行いたいと思う。

最後に、教育研究所からは教育相談事業についてである。不登校児童生徒への教育相談支援のため、昨年度全学校に設置した校内教育支援センター・教育相談室内教育支援センター(ひまわり教室)を有効活用し、多様な学びの実現のため関係機関と連携した不登校児童生徒の居場所づくり支援を行っている。

学校指導 監：2点報告する。

1点目、令和7年度各小中学校ともに4月8日に始業式が行われ、入学式については、中学校が4月8日、小学校が4月9日に行われ、無事に新年度がスタートできた。また、委員の皆様には多忙の中、小中学校の入学式に出席いただき、御祝いの言葉についても、御礼申し上げます。

2点目、今年度の児童生徒数、学級数についてである。本年度の児童生徒数について、4月1日付け調査では、小学校2, 428人(前年度比117人減)、中学校1, 331人(前年度比30人減)、合計3, 759人(前年度比147人減)となった。学級数について、小学校は通常学級が102学級(前年度比2学級減)、特別支援学級が38学級(前年度比4学級増)、中学校は通常学級が41学級(前年度比増減無し)となり、特別支援学級が18学級(前年度比1学級増)となっている。

なお、市内には、2校に複式学級がある。久那小で3学級、荒川西小で2学級(2・3年、4・5年)、が複式学級となっている。

教育総務課長 : 2点報告する。

1点目、4月11日(金)各小中学校の教頭先生と学校事務員を対象に学校事務説明会を開催した。これは、本年度予算の学校配当や会計書類作成上の注意点・変更点等を伝達する説明会で、毎年開催している。当日は、教育委員会の各課所から担当者や所属長が出席し、会計事務や各種事務処理の手順等についての説明を行った。私からは会計事故が起こらないよう、事務職員と管理職が意識を共有し、計画的かつ、適正な予算の執行をお願いするとともに、教頭先生をはじめ管理職の先生方には、日ごろから学校施設の見回りや点検を行い、子どもたちにも「ていねいな施設利用」を指導するようお願いした。

2点目、大田中学校大規模改造工事についてである。工事契約後、請負業者と協議を進めていたが、働き方改革等の影響により作業人員の確保が困難なため、夏休み期間中だけでは完了できないとの説明があった。そのため、隣接する大田小学校とも協議を重ね、大田中学校の工事期間中は、小学校の教室を間借りして授業を行うこととした。すでに、仮設工事は進行しており、5月の連休中に校舎内物品の移転を行い、連休明けから本格的に工事を行う予定で、夏休み期間中には主要な工事を完了させる見込みである。今後も引き続き、関係各所との連携に努め、工事中の安全確保には特に注意を図りながら、施工管理を行っていききたい。

学校教育課長 : 2点報告する。

1点目、令和8年度の小学校入学予定児童のランドセル補助金についてである。3月27日付けで、交付申請書と案内通知を発送している。4月1日から、既に受付を開始して、現時点で17件の申請を受け付けている。昨年度から今年度の変更点は、令和8年度入学児童から、ランリュック・ランバック類も商品も含めて、補助対象を拡大している。また、5月1日に就任する清野新市長であるが、使い道が限定される現在のランドセル補助金を廃止して入学祝い金の復活という Manifesto を掲げているので、今後この補助金については新市長の意向を確認しながら、調整をしていく。

2点目、公立学童保育室の4月1日現在の入室状況についてである。公立学童保育室については、15支援単位で673名、入室者がある。待機児童は、5名となっている。待機児童の内訳は、花の木小の6年生が3名、影森小の5年生が2名となっている。いずれの児童にも民間学童への入室を案内しているが、公立が良いということで、現在待機となっている。待機児童を減少させるために、各学校の近隣の民間学童保育室と連携を図って、公立に入りきれない子については、そちらと引き続き調整を行い、待機児童を発生させないよう努めていきたい。

保健給食課長 : 2点報告する。

令和7年度から、児童生徒は給食費が完全無償化となる。給食については、小学校が4月10日から、中学校が4月9日から開始している。4月現在の配食数は、小学校13校、中学校8校と教職員を含め、市内5ヶ所の調理場で、1日4,308食の給食を作っている。前年度に比べ、124食減っている。なお今年度の給食回数は186回を予定している。

また、新年度で、定期健康診断が始まり、4月14日高篠小学校で内科検診が始まった。そして6月25日まで、各学校で、内科、歯科、耳鼻科、眼科検診が行われる予定である。

文化財保護課長 : 1点、「第75回全国植樹祭」に合わせて開催する秩父市の記念事業について報告する。

5月25日(日)に秩父ミューズパークで開催される「第75回全国植樹祭」に合わせて、その機運の醸成と街なかの賑わい創出を目的として、秩父市として記念事業を開催する。事業内容は、市街地を会場に秩父祭・川瀬祭の笠鉦・屋台の一斉飾り置きを行う。大まかなスケジュールであるが、早い町会ではゴールデンウィーク明けから、順次、笠鉦・屋台の組立に入り、前日の24日(土)には秩父祭の笠鉦・屋台と川瀬祭の一部の笠鉦・屋台が街なかを曳行し、25日(日)当日の朝には所定の場所に曳き揃い、一般公開をする予定である。今回、秩父祭の中近・下郷の両笠鉦については、鉦を立て花笠が付いた状態で公開する。公開する笠鉦・屋台は、秩父祭が6基、川瀬祭が7基の計13基となっている。公開場所は、秩父祭笠鉦・屋台については秩父神社周辺を、川瀬祭笠鉦・屋台については中町・本町大通りと西武秩父駅前を予定している。また、24日の秩父祭笠鉦・屋台の曳行に際して一般の方も参加できる「曳き子体験事業」の実施を、下郷笠鉦については神社境内での組立・解体を計画している。本事業の実施にあたっては、「全国植樹祭」及び天皇・皇后両陛下の行幸啓のスケジュールとの兼ね合いがあることから、現段階でも埼玉県・埼玉県警などの関係機関と協議を重ねながら進めている。今後の情報については、「秩父観光ナビ」のホームページなどで随時、更新するので、そちらをご覧ください。なお、委員の皆様

様には本日、チラシをお配りしているが、右下のQRコードを読み込むと、ホームページにアクセスできるので、確認ください。

教育研究所長：2点報告する。

1点目、令和7年度の教育相談室の活動概要についてである。相談室の相談活動については、今年度より臨床心理士の安出カウンセラーが毎週水曜日に勤務している。また、教育相談員は、昨年度に引き続き、小菅恭青史室長、東敬治相談員、太幡敬子相談員の3名のほか、新たに、齋藤好美相談員、新井千恵子相談員、今井祥子相談員が加わり、今年度も6人体制で市のスクールソーシャルワーカー業務も兼ね、運営している。また、県SSWとして毎週水、金曜日に、田嶋昌司スクールソーシャルワーカーが勤務している。令和6年度の不登校児童生徒数は86名で、令和5年度と同数であった。小学校は減少、中学校は増加傾向となった。今年度も、引き続き不登校児童生徒を増やさないことが喫緊の課題となっている。研究所指導主事が教育相談担当として、教育相談員やSSW、中学校に配置されているさわやか相談員、関係機関等との連携を深め、相談室内「ひまわり教室」による通級指導や各校の「校内教育支援センター」を活用した相談員による学校訪問支援、また要請に応じた家庭訪問等の充実等により、改善を図るよう取組を進めていく。

2点目、中学校部活動地域移行についてである。

令和5年度に秩父市中学校部活動地域移行推進協議会を設置し、6回の会議をもって「市内中学校の休日部活動の地域移行方針」についての諮問に対する答申を教育委員会へ提出する経緯をもって、地域移行推進を進めている。現在、秩父地区の4町も自治体ごとに協議会を立ち上げ、地域移行に向けた体制整備を進める動きとなっている。引き続き、答申内容に基づき、休日部活動地域移行を推進していく。

※SSW：スクールソーシャルワーカー

(3)補助執行に関わる報告事項

総務課長：補助執行をしている「社会教育における人権教育事業」について、今年度の主な事業を報告する。

1点目、「秩父市人権教育推進委員会総会」は、7月下旬に、書面により総会の開催に代えさせていただく予定で考えている。

2点目、「秩父市人権教育・啓発研修会」は、2月中旬、午後2時から、秩父宮記念市民会館けやきフォーラムにおいて、開催予定である。

3点目、これは市長部局の主催事業となるが、「第23回秩父郡市人権フェスティバル」を、10月17日(金)午後1時30分から、皆野町文化会館において、開催予定である。本年は皆野町が幹事となり、講師は現在調整中であるが、人権に関する講演会等を予定している。

4点目、これも市長部局の主催事業となるが、「秩父市人権講演会」

を、1月24日(土)午後1時30分から、歴史文化伝承館2階ホールにおいて、開催予定である。この講演会は、さいたま地方法務局熊谷支局及び秩父支局の県北管内13市町が、毎年輪番で開催している事業である。令和7年度については、秩父市が実施する順番となり、講師は現在調整中であるが、人権に関する講演会を予定している。なお、開催日時等、詳細については、時期が近づいたら、改めて案内をさせていただきます。

市民スポーツ課長 : 補助執行事務として行う主な事業について報告する。

市営体育施設を管理し、貸し出しを行うことにより、市民が快適に利用でき、安心・安全にスポーツに親しめるような、各種スポーツイベントを企画し、開催している。

まず、設計業務委託についてである。令和8年度に予定している影森グラウンドのクラブハウス等の付帯設備を整備するための設計業務委託、並びに文化体育センター第2アリーナの大規模改修工事の設計業務委託を進めていく。

次に工事である。令和6年6月に矢の暴発事象が発生した原谷アーチェリー場の改修工事の実進を進めていく。

次に、第66回秩父宮記念ミューズの森チャレンジロードレース大会についてである。昨年度まで6.3km、3.2kmのコースを今年度は6km、3kmに距離を修正した。特設コースの特徴であるが、1.5kmコースは小学生・ファミリー向きの平坦コース、3kmコースは中学生・初心者向きの平坦コース、6kmコースは緩やかなアップダウンのあるロードコース、11kmコースはロードあり、林道あり、アップダウンありのバラエティに富んだコースとなっている。本年度も招待選手として大東文化大学陸上競技部の選手に出場していただく予定である。なお、先週18日金曜日に申込みを締め切ったが、約1,400名から申込みがあった。

次に、小学生・中学生を対象とした温水プールの無料開放についてである。現在、市民が楽しめるプールがないことから、7月27日、8月10日の2日間、1日当たり市内小学生100名、中学生100名を定員として、原谷の温水プールを無料開放できるよう、指定管理者である一般財団法人秩父地域振興公社とともに現在進めている。

次に、令和2年度から始まった「健康運動教室」は、大変好評であり、今年も「スポーツの力で健康寿命を延ばそう!」をスローガンに掲げ、今年度は県民健康福祉村の協力を得て、体力テスト、運動指導、体力テスト結果説明から始まり、ニュースポーツのディスコンを行う予定である。また、今年も羊山公園にてウォーキングと乗馬体験も行い、最後に体力テスト、運動指導、体力テスト結果説明で締めるプログラムを予定している。開催場所は影森の「スポーツ健康センター」をメインに、

定員50名を募集する予定である。

最後に、当課では生涯スポーツ推進のため、ペタンク競技の普及に取り組んでいるが、今年度は、令和8年度に秩父市を会場として行われる「ねりんピック」のペタンク大会のリハーサルとして、11月に宮地グラウンドを会場に第15回秩父市長杯ペタンク大会を開催する予定である。

各種イベントを開催し、子どもから高齢者まで幅広い層の市民に、生涯を通してスポーツに参加できる機会を創出していきたいと考えている。

※ディスコン:赤と青の2チームに別れて1チーム6枚の円盤を投げどちらがポイントに近づいているかを競う。

生涯学習課長 : 生涯学習課・歴史文化伝承館・中央公民館の今年度中に予定している補助執行の内容について報告する。

まず、青少年教育については、青少年育成関係団体74団体で組織する「青少年育成秩父市民会議」で研修会などを通じて青少年問題を共有する。また、地域でのスポーツや文化活動による青少年育成活動に取り組む。具体的には、ペタンクジュニア大会と文化展を開催し、青少年が活躍する場を提供していく。

次に公民館については、中央公民館、各地区公民館において本年度も主催講座及びクラブを開催する。中央公民館の主催講座は3講座、クラブ学習は41クラブで、その活動の成果発表の場として10月に文化祭を開催し、演技発表と作品展示を行う。各地区公民館も10月から11月に文化祭を開催する予定である。

歴史文化伝承館については、ちちぶ学セミナーを今年度も開催する。基礎講座12回、公開講座2回、専門講座1コースである。

芸術文化に関しては、秩父美術展を10月13日から19日の日程で開催する予定である。市民音楽祭については、昨今の開催状況から参加者の減少など、市民音楽祭の開催について検討が必要と判断し、音楽団体にアンケートを実施し、その状況を踏まえ今後の開催方法等について秩父市音楽協会で検討する予定である。親子ふれあいコンサートは12月に開催予定となっており、市民が芸術文化に触れる機会を創出していく。また、市民が開催する芸術文化イベントを集約し、令和6年度に立ち上げたちちぶ芸術祭のホームページなどを活用して市民の芸術文化活動の情報発信をしていく。

秩父図書館長 : 秩父図書館の補助執行事務について報告する。

今年度も図書館事業の根幹となる図書館資料の選定、購入、整備、貸出などの業務を中心に生涯学習の一環として、俳句講座3講座、短歌講座、万葉集講座などの文化的活動を支援する主催講座を実施していく。また、図書館のおはなし会や対面朗読事業にボランティアとしてご協

力いただく方に向けて、おはなしの講習会、対面朗読講座を実施していく。

次に、子ども向けの主催事業として、赤ちゃんと保護者を対象とした「親子でたのしむ絵本とわらべうた」、幼児から小学生を対象とした「おはなし会」、「わくわく絵本タイム」などのイベントを毎月実施していく。学校との連携については、引き続き、授業補助のための本の貸出、読書推進活動を補助する朝読セットの貸出などをはじめ、学校を訪問して行うお話会やブックトーク、移動図書館の運行も実施していく。令和3年度より開始した「セカンドブックスタート」も継続して行う。昨年度の事業の実績等は、別紙の報告事項のとおりである。また、「秩父市史資料編刊行事業」についてであるが、平成11年度より刊行を開始し、今年度第18巻を刊行予定である。

6 議案審議

教 育 長 : 議案審議に関わる議題は、今回、特にない。

7 協議事項

(1) 後援等について

教 育 長 : 後援等について、説明を求める。

教育総務課長 : 別紙のとおり、9件の協議をお願いする。

3 番 委 員 : 申請書が雑であったり審査前にチラシに後援名義が使われていたり、提出時のチェックを厳しくした方が良いのではないかと。

教育総務課長 : そのことについては申請者に周知していきたい。

教 育 長 : 他に質問がないようなので、ここで委員の皆様にお諮りするが、対象が狭く営利目的と受け取れかねない5番の事業以外について、後援等を承認することでいかがか。

(「異議なし」という声あり)

それでは、今月の後援等について、ただいまのとおり決したので、事務局には、今後の処理をお願いする。

(2) 5月教育委員会定例会の日程について

教 育 長 : 定例会の日程について、説明を求める。

教育総務課長 : 5月教育委員会定例会について、5月28日(水)午後3時から歴史文化伝承館5階第1会議室において開催することを御提案させていただく。

(「異議なし」という声あり)

教 育 長 : それでは、5月教育委員会定例会については、5月28日(水)午後

3時から、歴史文化伝承館5階第1会議室にて開催する。

8 その他

事務局：2点、事務連絡を申し上げる。

1点目、秩父地区教育委員会連合会の定期総会が、5月8日(木)午後2時から秩父市役所本庁舎4階第1・2委員会室で開催される。委員出席をお願いします。

2点目、全国市町村教育委員会連合会第70回定期総会が5月21日(水)午前10時から「アルカディア市ヶ谷」で開催される。大島職務代理の出席をお願いします。

9 閉会

教育長：他に付議すべきことがなければ、本日の日程を全て終了する。
以上をもって、秩父市教育委員会4月定例会を閉会する。